

## H 2 8 重 点 普 及 活 動 報 告 書

1	課 題	森林組合組織改革への支援
2	普及指導区・氏名	中濃普及指導区 古川 勇人
3	サブテーマ	組合組織の活性化に向けて
4	課題を取り上げた理由（事由・背景）	
	<p>中濃森林組合は平成16年4月に広域合併し本所、洞戸、板取、武儀、上之保の各支所を設け事業を展開してきました。組合組織については平成27年度まで何度か検討されてきましたが、改編すること無く、各支所においては、数人の職員により担当地区の現場業務に係る仕事全般を行っており非効率な運営も見られ、組合内部にも現状に対する問題意識が生じていた。</p>	
5	普及客 体	中濃森林組合
6	到達目標（期待できる成果）	
	<p>業務関係職員の集合配置による効率的な業務推進体制の構築。                  具体的には、業務のボトルネックの解消、所有する林業機械一元管理の徹底による効率的な活用、職員の相互干渉による職員意識の共有化、職員の意識改革の醸成、業務全体が一元管理されることでの見える化、効率化の推進。</p>	
7	指 導 内 容	
	<p>森林組合の職員の中で燻っていたモヤモヤ等共通課題を解決するため、幹部職員自らが他の森林組合の事例調査を今後の組織運営に活かせるよう指導した。                  更に、調査に際し調査を効率的に行えるよう視察先の森林組合の改善ポイント等をまとめた資料を作成し、調査の効果を上げることができるよう提供し取り組んだ。</p>	
8	具体的展開方法等	
	<p>幹部職員自らが他の森林組合を見聞きし自身の組合について考えられるよう事例調査を実施した。                  事前に取りまとめた調査ポイントを事前に予習し、長年に及ぶ組織の活性化対策、最近特に効果の出始めた取組事例等を調査した。この結果、従来の認識より大きく改革が進んでいたことを認識した。                  改革のポイントでは、役職員の意識改革の重要性、トップダウンによる指示の徹底、業務のボトルネックの解消、役職員を含めた共通目標の明確化等を確認した。                  その後、森林組合に調査結果を持ち帰り、役職員で検討を繰り返し、早急な改善が必要との認識のもと組織改編に着手した。平成28年5月3日には業務担当職員を本所へ集合配置した。                  更に、職員の組織体制の検討を進め、森林整備を進めるうえで重要な施業集約化を担当する部門と、現場の効率化を担当する部門に再編した。</p>	

8	<p style="text-align: center;">中濃森林組合の組織改編について</p>
9	<p>評価（結果及び今後の課題等）</p> <p>組合組織の活性化に向けた組織改革は進みつつある。今後は、器はできたが魂を入れることが極めて重要となるため、役職員自身の意識改革に向けた支援を更に進める必要がある。更に、素材の生産性をいかに高めるかの検討及び指導を進める必要がある。</p>
10	<p>参考（先進地視察など自己研鑽の取組み等）</p> <p>事例調査先 郡上森林組合</p>

- ※1 課題は、各林業普及指導員が定めた内容とする。
- ※2 A4版用紙縦置き3枚以内（写真・資料含む）とする。
- ※3 主として箇条書きによる簡潔明瞭な記述とする。
- ※4 使用する文字は、原則「MSゴシック」「10.5ポイント」とする。

## H 2 8 重 点 普 及 活 動 報 告 書

1	課 題	大規模所有者の森林整備への支援について
2	普及指導区・氏名	中濃普及指導区 清水 力
3	サブテーマ	森林経営計画の着実な実行
4	課題を取り上げた理由（事由・背景）	
	<p>県の支援を受け森林経営計画を属人で樹立した大規模所有者が、初めて森林整備事業を実施することに関して苦慮していた。</p> <p>森林組合等への受託事業ではなく直営事業の形態となるため、森林経営計画の実行監理に対して支援する必要があったため。</p>	
5	普及客 体	大規模森林所有者
6	到達目標（期待できる成果）	
	<p>(1) 停滞していた森林整備事業の加速化</p> <p>(2) 森林整備意欲の向上</p> <p>(3) 未利用材の利用促進</p>	
7	指 導 内 容	
	<p>(1) 現地調査を踏まえた事業計画の作成</p> <p>(2) 効率性と安全性を考慮した作業システム・路網整備の検討</p> <p>(3) 補助事業実施における支援</p>	
8	具体的展開方法等	
	<p>(1) 施行地の優先順位化 主な施工地の現地調査を実施し、施工地の優先順位の決定と路網計画の検討を行った</p> <p>(2) 年間スケジュールの策定 現地調査の結果を基に年間スケジュールを作成し、進捗管理の徹底を指導した。</p> <p>(3) 森林作業道の現地指導 森林作業道の着工後に現地指導を行い、谷川の横断（洗越工）や路面排水、法頭部の支障木伐採等について指導を行った。</p> <p>(4) 間伐施業の現地指導 間伐木の選木、効率的な作業システム、有利な仕分けと採材について現地指導したあわせて未利用材の利用促進を図るためCD材の搬出について指導した。</p> <p>(5) 補助事業実施における支援 初めて補助事業を実施することから、現場管理（測量、プロット、写真）や関係資料の作成等について支援を行った。</p>	
9	評価（結果及び今後の課題等）	
	<p>(1) 施行地の優先順位化 分散していた施工地の優先順位化を行ったことにより、実施すべき事業地が明確になり事業計画が立てやすくなった。</p> <p>事業地が広域なことから奥地や他管内は調査できなかったため今後は調査地を拡大する。</p>	

- (2) 年間スケジュールの策定  
作業道開設を含めた工程表を作成することにより、次の作業の準備や業者の手配等がスムーズに行えた。  
計画に対して実行が遅れ気味となり後半にしわ寄せがあった。
- (3) 森林作業道の現地指導  
施工業者等に現地にて、洗越工や路面排水、法頭部の支障木伐採等について直接指導を行ったことにより、災害に強い道づくりができた。
- (4) 間伐施業の現地指導  
未利用材が予定以上に搬出でき、C・D材のバイオマス利用が促進された。
- (5) 補助事業実施における支援  
不慣れた補助事業の現場管理や資料作りについて指導を行った結果、補助事業の円滑な手続きが行えた。



参考（先進地視察など自己研鑽の取組み等）

10

木材市況動向等の情報収集のため管内の木材市売市場へ出向き、市況状況や採材時の注意点等について指導を受け、管内の事業者へ情報提供を行った。

- ※1 課題は、各林業普及指導員が定めた内容とする。
- ※2 A4版用紙縦置き3枚以内（写真・資料含む）とする。
- ※3 主として箇条書きによる簡潔明瞭な記述とする。
- ※4 使用する文字は、原則「MSゴシック」「10.5ポイント」とする。